

リサイクルによる資源

生産者（植物）が農林水産業や企業となり、消費者（動物）が住民、分解者（微生物）が行政（町）ということになります。

人間社会の枠を越えて、自然界の生態系でも分解しきれないもので、放置せざるを得ない事態となっています。

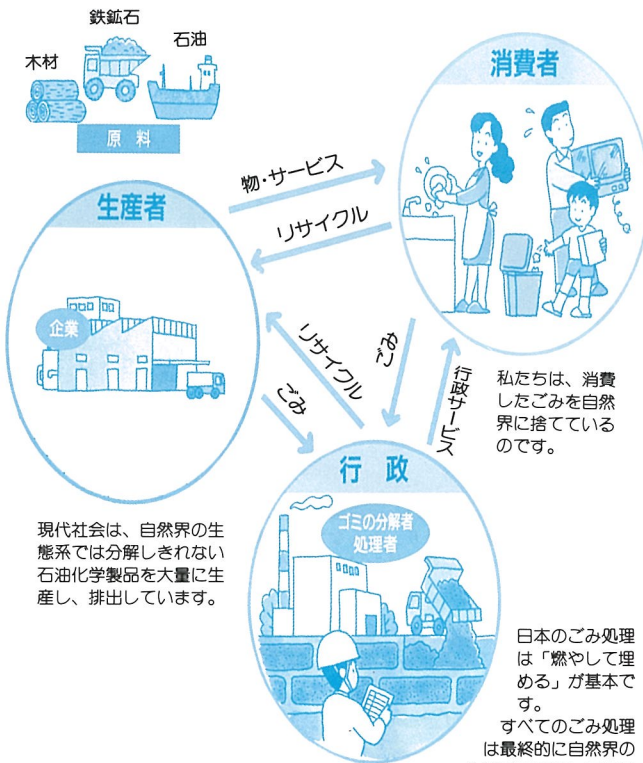
自然界という分解者が行政となるのですが、全国的に処理場は用地確保がむずかしい状況にあり、人間社会では結果的に、分解者としての行政が対応しきれず、

行政としては、ごみの減量化等に努力はしていますが、この問題は町民の皆さんの協力があって始めて解決できる問題なのです。

エネルギーを節約し汚染物質を減らす

日本の国土面積は世界の0・3%、人口は2・3%

にすぎない小さな国なのです。



しかしながら、その日本では1989年（平成元年）には、20億トンの資源とエネルギーが消費されています。これは全世界の消費量の7%にもあたり、私たちがいかに消費しているかがわかります。

エネルギーの消費が多いということは、ごみや汚染物質が増えるということです。

また、貴重な資源が減ることにもなります。もし、このまま進んでいったとしたら、美しい地球を次代の子供たちに引き継

ぐことができなくなってしまう。

それでは私たちに何が出来るでしょうか。現在もつと地球にやさしい有効な手段がリサイクルなのです。

リサイクルは、ごみや汚

エコマークって何？

環境にやさしい商品にエコマークがついています。

エコマークの商品が増えれば、環境に対する気持ちも変わってくると思います。

◎エコマーク制度は、現在の私たちのくらしが地球を汚染していることを自覚し、今後できるだけ地球に負担をかけなくくらしをするためにつくられました。

◎エコマーク商品
平成元年2月に始まったこの制度も初めは7品目46商品でしたが、現在では47品目1,812商品あり

染物質を減らすだけでなく、エネルギーが節約でき、資源を有効に使うことができるのです。

「私ぐらい」と思わずに、「私からリサイクル！」と生活に浸透させていただきたいものです。



ります。（平成4年3月現在）

こうした背景は、企業ももはや環境を無視した活動は成り立たないという考え方に立ってきたからだといわれています。

私たちが一人ひとりが、環境について関心をもつことが必要ではないでしょうか。

ともに美しい地球と住みよい町を守っていきましょう。

環境係を応援してください

環境係はできたばかりの係で課題も多く、町民の皆さんの期待も大きいものがあります。どうか環境問題についてよい提案等がありましたら一報いただきたいと思います。